

沿革

大正 10 年 10 月	文部省より熊本県立御船中学校を熊本県上益城郡木倉村に設置許可
大正 11 年 4 月	熊本県立御船中学校開校許可。新築校舎で入学式を挙行。三綱領と校章を制定
大正 11 年 10 月	第 1 回開校記念式を挙行。同校創立記念日を 10 月 7 日と定める
大正 13 年 2 月	開校式を挙行
大正 15 年 2 月	校舎建築が全部完了
昭和 2 年 3 月	第 1 回卒業式を挙行
昭和 3 年 3 月	第 2 回卒業式で初めて校歌斉唱
昭和 23 年 4 月	学制改革で御船高等女学校を併合して熊本県立御船高等学校となる
昭和 38 年 4 月	機械科・電気科を併設
昭和 47 年 11 月	生徒歌制定
昭和 48 年 2 月	天神の森周辺整備完成
昭和 61 年 4 月	機械科・電気科を廃止して電子機械科を開設
平成 6 年 10 月	セミナーハウス完成



旧制御船中第 20 回（昭和 21 年）卒
吉本 則吉 さん（木倉・82 歳）

授業より訓練が優先
命落とした友の慰霊

御船中へ入学した時、上益城郡を中心に生徒 1000 人ほどが在籍していました。学校へは、麦飯や芋飯を持って通ったものです。当時は戦時中で、訓練や農業の手伝いか主。満足な授業を受けることはできませんでしたが、礼儀はとても厳しかったです。唯一の楽しみは、運動会と、うさぎ狩りでした。学徒動員で約 500 人が長崎県大村市や福岡県の工場で、飛行機の部品づくり作業などをしました。空襲や病気で生徒 11 人が命を落としました。戦後、御船高校に殉難碑を建て、毎年 10 月 25 日に慰霊式を行っています。

↓ 右建物は講堂で 1 階が御船実科高等女学校、左校舎は御船小学校



●御船実科高等女学校

昭和 3 年 2 月、町立御船実科高等女学校が御船小学校内に創立。昭和 18 年 4 月、御船町他 12 か町村高等女学校組合御船高等女学校に校名改称。修業は、1 回卒 4 年、2 回卒 3 年、3 回卒以降は 2 年。教科科目は、和裁、洋裁、調理、作法、手芸、華道。普通科目は、国語、数学、珠算、体育、農業実習など。昭和 23 年、学制改革で御船高等学校に併合した

御船高校の出発と改革

教育の大変革期を迎えた昭和 20 年代。日本は戦後、新教育の「学校教育法」を公布して、新学制の 6・3・3・4 制とした。義務教育は、小学校 6 年、中学校 3 年の 9 年間に延長され、新制の中学校と高等

学校が誕生していった。この学制改革によって、御船中は昭和 23 年 4 月、県立御船高等学校として新たな出発をしたのだ。旧制中学校 3 年以下を併設中学校へ編入、町立御船高等女学校の併合、定時制の設置を実施。県下にさきがけて、男女共学が導入さ

れた。教育課程では、単位や選択科目が新たに加わった。高度成長の昭和 38 年には、機械科と電気科が共に一学級併設。実験や実習の工業課程が修得できるようになると、技術者を目指す若者が新たに入学した。昭和 61 年には、機械科と電気科を廃止して、電子機械科を開設。時代の変化にも一早く対応してきた。幾多の変遷を重ねて、現在は 1 学年、普通科 3 クラス、普通科芸術コース 1 クラス、電子機械科 2 クラスで構成され、伝統と歴史を今に受け継いでいる。そして今年、創立 90 周年という新たな時代の節目を迎えたのだった。

●天神の森

御船高校の校門正面に広がる森。1541（天文 10）年、御船城主・甲斐宗運が築城に際し、城の四方に守護の神「天神」をまつり、東の天神と呼ばれる。中央には樹齢 400 年以上のクスがそびえる。昭和 43 年、県の保存木に指定。初代校長・岩口石蔵先生の胸像や三綱領の石碑が設置され、在校生や同窓生にとって、高校のシンボルとして愛されている



↑ 巨樹クスを枝抜きや高あげ作業を施して大切に守られている天神の森

御船高等学校（昭和 23 年 4 月～）



90 年の歴史を刻む御船高校



御船高校出発当時の校門

御船中が木倉村に誕生

日本の近代教育は明治 5 年に公布された「学制」にさかのぼる。その後、「教育令」や「学校令」が制定され、教育制度の基本体系が整備された。

熊本県では、明治末から県立中学校の発展期を迎える。大正に入ると中学校志願者が増え、増設の要望が高まった。

時代の要請にこたえて大正 11 年 4 月、県立御船高等学校の前身となる、県立御船中学校が木倉村（現御船町）で産声をあげた。当時は、上益城郡で唯一の高等普通教育の機関として、小学校を卒業した男子生徒の 5 年制学校であった。第 1 回入学試験で、御船中の門を 142 人がくぐった。

校内は、天神の森を中心に敷地約 11500 坪。校舎三棟、講堂、寄宿舎などが整備された。一方で校庭の大半は田。杉田製糸工場から石炭ガラをもらい、矢形川から川砂を採取し、校庭を整地した。

初代校長には岩口石蔵先生が就き、三つの校訓からなる「誠実」「自学」「自律」の三綱領が制定された。

当時の教育は、国語、英語、数学のほか、修身や教練なども学んだ。科目数は実に 18 を超えたが、勉学を志す若者たちは増え続け、昭和 15 年には生徒定員千人となる。しかし昭和 10 年代は、戦争の影響で、紙不足や学徒動員によって、十分な授業が受けられない状態が終戦まで続いた。



大正 11 年、第 1 校舎と建設中の南寮と中央には天神の森、右中央の奥は城山

御船中学校（大正 11 年 4 月～昭和 23 年 3 月）



講堂での開校記念式典



開校記念日の記念門

→ 天神の森にそびえる県立御船中学校の初代校長・岩口石蔵先生の胸像

歩み



日本の近代教育制度が始まった明治初期。高等普通教育を志す若者は増加の一途をたどる。ここ御船の地にも、その熱い思いは高まっていた。大正 11 年 4 月、県立御船中学校が産声をあげ、歴史の第一歩を踏み出したのだった。

